

おじいちゃん、  
いつもあそんでくれてありがとう。

しょうぎをしてあそぶのがたのしいです。

おじいちゃんは、ぼくをよろこばせるために、  
わざとまけてくれるね。

そんなやさしいおじいちゃんが、  
だいすきです。

中川なかがわ  
蒼大そうた（小1 川北町）

おじいちゃんはおざとまけているのでないですよ。

かつことのたのしさを

しってほしいからです。

ちいさいころから、たのしくがんばれば

なんでもできることを

しってほしいからです。

おてがみありがとう。

中川  
宗和むねかず（祖父）

いつもの夕ごはんは、パパとおばあちゃんとは  
一緒に食べられないよね。

一緒に食べる時、碧は

「しあわせだね」と言ってくれたね。

その言葉に家族中が、

しあわせの空気になったね。

みんなでたべるごはんはおいしいね。

西田 愛(母)

みんなでごはんをたべると、

へやじゅうがにぎやかに、なるよ。

それがわたしのしあわせのきもちなんだ。

それでしあわせのくうきになるみたいに

わたしのまわりがぼかぼかになるんだ。

それが

わたしのたからもの。

西田 碧(小1) かほく市

ぼくはひとりでねるとき

おかあさんのまくらでねているよ。

いいにおいがするからあんしんしてねむれるよ。

おふろでときどきおかあさんのシャンプーを

つかっているよ。

いいにおいがすると

こころがつよくなってくるよ。

橋本はしもと  
橙輝だいき（小1 七尾市）

シャンプーが減るのがいつも早いなど

思おもっていたよ。

まさか橙輝つがが使つかっていたとは…。

でも橙輝だいきの心こころを強つよくしてくれているなら

いつでも使つかっていいよ。

お母お母さんは

橙輝だいきの笑えが顔おで心こころが強つよくなるよ。

元げん気きな笑えが顔おを毎まい日にち見みせてね。

橋本  
祐美ゆみ（母）

小学校に入学して今まで、  
みんなより、はしるのも、  
はっぴょうするものにながてで、  
うんどう会でもじゅぎょうさんかんでも、  
かなしい思いをさせてしまっているのに、  
いつもえがおでおうえんしてくれて  
ありがとう。

重國 しげくに  
愛奈 あいな  
(小2 能登町)

にがてな事はだれにだってあるし、  
とくいな事も、みんなちがうんだよ。  
それを「こせい」っていうんだよ。  
一つ一つがんばるあなたの「こせい」は  
とてもすてきな宝ものです。  
えがおでいさせてくれて、  
ありがとう。

重國 ちづる  
千鶴 ちづる  
(母)

お母さん、さちより先にしなないで。  
ずっといっしょにいたいのに。

お母さんと同じ年だったらよかったな。

そうすれば、いっしょに学校に行って

きゅう食を食べて、べん強して、

たくさん遊べたのにな。

あゝくやしいな!!

福田 紗千（小3 津幡町）

さっちゃん、それはもうお母さんではなくて

お友達だよね（笑）

でも、はっとしました。

最近「忙しい」と言い訳をして

思いつきり遊んでなかったね。

朝も玄関で行ってらっしやい…。

さみしかったんだね。

夏はいっぱい遊ば!!

福田 千恵（母）

夜、おそくまで働いているのに  
朝、一番早く起きて、私を外まで見送ってくれて  
手をふってくれてありがとう。  
でもね、いつも思うけど  
ママの頭、すごいねぐせで  
ばくはつしておもしろいね。  
そんなママが大好きだよ。

新宅 葵（小4 加賀市）

すごいでしょ。寝癖。  
わかっているんだけど、朝はバタバタで自分の事、  
後回しにしてしまうのよ。  
でもね、ママの寝癖で葵が、  
いつも笑ってくれて  
くしでママの髪の毛を整えてくれて  
それがママの一日の始まりなんだよ。

新宅 加代子（母）

家族を植木で例えるなら、

根っこがお父さんで、どしっと家族を守り、  
枝が司、

そして家族の気持ち離れないようにつなげるのが  
幹であるお母さんの役目です！

司という枝がぐんぐん成長するよう

全力で受け止めるよ！

石川 友貴(母)

お母さん、いつもぼくの話聞いてくれるね。

話すと心が軽くなるよ。

ふしぎだね。

最後はいつも笑顔にしてくれるんだ。

根っこと幹と枝、家族がつながっていると  
思うと  
がんばる強い心に変わるんだ！

ふしぎだね。

石川 司(小4 能美市)

ひいじいちゃんが死んだ時、

ぼくは畑を守るってやくそくしたよね。

いもなえや夏野菜を植えたり水やりしたり、

育てるってたいへんだね。

お父さんとぼく達

ががんばっているすがた、

天国でよろこんでくれているかな？

山瑞 隼叶（小4 志賀町）

ひいじいちゃんもきつと

よろこんでいると思うよ。

お父さんがはやお手伝いをたのむと

真っ先にじゅんびして

来てくれるね。

いつもお手伝いしてくれてありがとう。

これからもいっしょにがんばっていこうね。

山瑞 康裕（父）



「失敗してもいい？」

花穂がよく言うセリフだね。

全力でやれば失敗してもいいんだよ。

努力してるのはお母さんがよく知ってるから。

何でも全力でがんばる

花穂はすごいよ。

それに、結果は必ずついてくるから大丈夫。

高村  
恵美(母)

「失敗してもいいんだよ。」

お母さんがよく言うセリフだよ。

本当は失敗してもいいと知っているけど

確かめたくなって、

その言葉を聞くとほっとして、

勇気が出るんだよ。

これからもたくさんチャレンジしていくね。

高村  
花穂(小5  
かほく市)

いつも何かしら忘れるママへ  
ママって面白いよね。

出張の時のキャリーバッグを忘れたり、  
さつきしようとしたことを忘れたり。  
でも私の大切な日や学校行事のことは  
忘れないよね。

なぜ覚えているのが不思議です。

松島 夏海（小5 宝達志水町）

ほんとだね。

色々忘れちゃうのに

何でなっちゃん達の予定は忘れないんだろう？

ママの脳内は「子供」と「仕事」で

今はいっぱいなのかも。

また面白いことしちゃうかもよ。

あ、パパの予定も忘れないように気をつけます。

松島 裕子（母）

お母さんが連合運動会に来ていて  
はずかしかった。

だって大きな声で応援するから。

でも私が走っている間の応援は、

なぜかはずかしさがとんでいったよ。

その声は私にしか聞こえない、

そんな気がしたから。

南出 結衣（小6 加賀市）

おかしいなあ。

コロナ禍だから声を出さずに

応援していたのになあ。

もしかしてお母さんの心が聞こえたのかな？

コロナで我慢も沢山あるけど、

言わなくてもわかる

以心伝心の術を身につけられたね。

前向いていこ!!

南出 知恵（母）

お母さん、

いつも指先ゆびさきが黒いよね。

毎日まいにちお仕事しごとで山菜料理さんさいりょうりを作つくっているからでしょ。

みんなが「おいしい、おいしい」と言いってくれる。

私わたしもそう思おもう。

だって、お母さんしか作れない味あじだから。

指が黒いのはおいしい証あかしだね。

西山にしやま 琴こと(小6 白山市)

いつも指先が黒くて

「はずかしいなあ」って思おもっていたんだ。

買物かいもの行いって支払しはらう時ときも、

見みられないように指先さきを丸まるめていたの。

でも、琴が「おいしい証」と言いってくれるなら、

これからは堂々どうどうと

指さきを出だしてみるね。

西山 由佳ゆか(母)

どんなことが起きても、  
明るく前向きな言葉で乗り越える結愛を、  
心から感心して見えています。  
来たる反抗期に備え、  
結愛の語録を書き留めています。  
どの言葉もきつと、  
悩めるあなたを助けてくれるはずだから。

大野 美和(母)

そんな風に思っていたんだね。  
素直にうれしいよ。  
でもね。  
私の言葉は、私が辛いときに  
母さんがかけてくれた言葉だってわかってる？  
だから言いにくいんだけど、  
私の語録ではなく、  
母さんの語録になっていると思うよ。

大野 結愛(中1) かほく市

娘よ、

どうか勉強の途中で寝落ちしないで！

母より大きくなったあなたを

どうやって運べばいい？

そーっと手を握ると、

柔らかだった手がゴツゴツのマメだらけ。

…部活頑張るとるんやね。

もう少し寝かせといてあげるか。

西野 恵(母)

母よ、

どうかそのガサガサの手で起こさないで！

起こしてもらうのは嬉しいけど、

痛いんだよね。

でも、お母さんが家事を

毎日一生懸命こなしている証だと

由夏は思っとるよ。

縁の下の力持ちのお母さんが大好きです。

西野 由夏(中2 加賀市)

雨が降る日は  
いつも玄関にタオルを置いてくれてありがとう。  
学校から帰ると

「おかえり」のメモとタオルが置いてあるので  
冷たい雨に打たれていても  
一気に心が温かくなるよ。  
おかげで穏やかに過ごせるよ。

松尾 葉奈（中2） 小松市

かながそんな風に思っていたのなら案外、  
雨の日も悪くないかと  
考え直すよ。

小さい頃のように「おかえり」  
と出迎えることがなかなか出来ないけど、  
せめて「おかえり」メモとタオルで  
出迎えさせてね。

松尾 かおり（母）